

有珠山

○西山火口近傍の地磁気変化（第5報）

これまでと同様、Nb火口の南側で全磁力増加、北側でわずかな全磁力減少の傾向が継続している。北西の地熱地帯の一部にも引き続き大きな変化が認められる（P16とP17）。最新の測定値を含めて全磁力変化率を直線近似によって求め、ソースの位置を推定し直した結果、等価磁気双極子（帯磁源）は、Nb火口の中心から南西に約100m、標高約-200mの位置に求められた。これは、2000年新山の地下浅部で冷却が進行していることを意味する。これとは別に、優勢な地熱域となっているP17周辺のごく浅い位置にも、もう一つの正帯磁源が示唆される。

図1（右上）西山火口域周辺の磁気点配置。
○で示した3点はプロトン磁力計による連続観測点。□は繰り返し磁気点を示す。

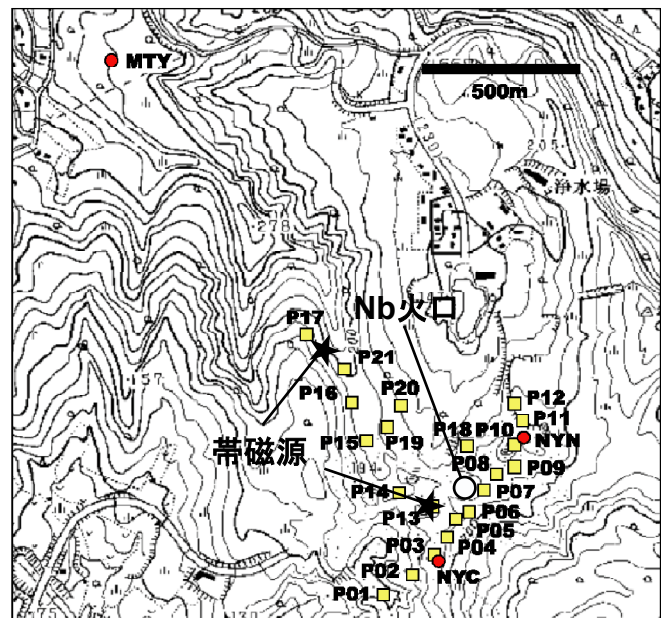
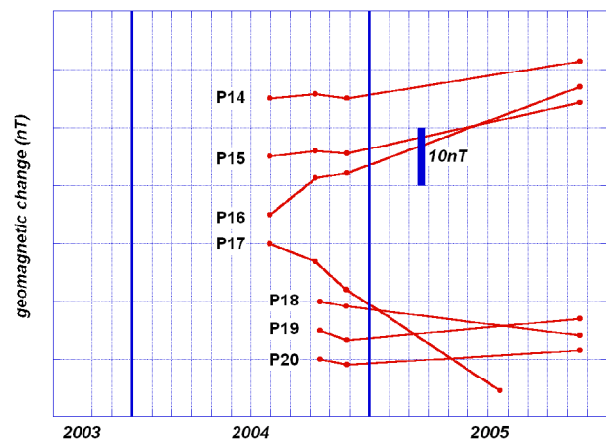
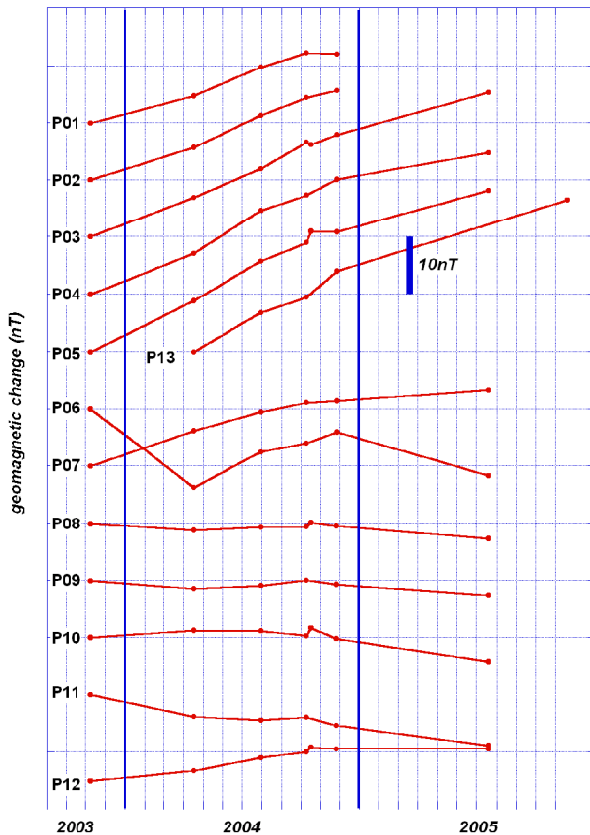


図2（左下）繰り返し磁気点の全磁力変化
(P01~P13: 2003年11月~2005年11月)。基準点はMTY。

図3（右下）繰り返し磁気点の全磁力変化
(P13~P20: 2003年11月~2005年11月)。基準点はMTY。



(橋本・鈴木・前川)

有珠山